

「福井県文化振興プラン」

令和7年度取組み状況と令和8年度の主な取組み(案)

<参考>「福井県文化振興プラン」の施策体系

【基本理念】

【目指す姿】

【施策の方向性】

【施策の展開】

みんなで創る文化でつながる人と地域が輝く福井

1 それぞれの豊かさに出会い、自分らしく育む。

誰もが文化芸術とふれあい、自ら参加・創造し、心豊かに暮らす福井

① 県民主体の活動の振興

- 文化芸術活動実践者への支援の充実
- 文化芸術活動への参加促進

② 県民すべての表現・参加機会の拡大

- 多様な担い手による創造的な活動の促進
- 誰もが文化芸術に親しめる環境の整備

2 ここにある輝きを、これからへ贈る。

みんなで地域の文化を守り、育て、未来へ引き継ぐ福井

③ 文化芸術を振興する次世代の育成

- 次世代の育成
- 若手アーティストの育成

④ 地域の文化の振興

- 有形・無形の文化財や文化的・歴史的景観の保存・継承・活用
- 地域の文化を支える人材の確保

⑤ 文化芸術を活用した地域社会の再生と創造

- アートを活かしたまちなかの活性化
- 文化施設の機能充実

3 文化でつながる。文化でつくり出す。

文化芸術の新たな価値を創造・発信し、県民と訪れる人がともに楽しむ福井

⑥ 文化芸術による交流機会の拡大

- 地域プロジェクト型アート活動への支援
- 文化観光の促進
- 国際的な文化交流の充実

⑦ 文化芸術によるクリエイティブな経済の活性化

- 文化芸術活動を応援する企業の拡大
- 文化芸術と地域経済の有機的な連携創出

① 県民主体の活動の振興

● 文化芸術活動実践者への支援の充実

■ 「ふくい文化創造センター」開設 センター事業

- ・(公財)福井県文化振興事業団内のアート振興部を改組し、「ふくい文化創造センター」を設置
- ・文化活動に関する専門知識を有するディレクター(1名)を採用
- ・アートプロジェクト・コーディネーターとして、地域おこし協力隊1名を委嘱(2名から3名に増)

■ 県民の自立的・継続的な文化芸術活動への支援 センター事業

- ・アートプロジェクト支援事業助成金による団体の活動支援 【採択件数】44件(申請64件)
- ・アートプロジェクト実践団体への伴走支援(相談・助言等)を強化 【相談対応等件数】のべ400件以上
- ・文化芸術活動に関する研修やネットワークづくりのための交流会を開催(3回) 【参加者数】計158名
- ・文化芸術に関心のある方が自由に集う「アート茶会」を開催(11回) 【参加者数】のべ185名(R8.2末現在)

■ 分野を超えた総合型文化祭の開催

- ・福井県文化協議会との共催により「ハーモニー文化フェス」を開催
R7.10.12 メインフェスティバル(会場:県立音楽堂)、11.7~10 サブフェスティバル(会場:バル)
【参加者数】451人(14分野、22団体) 【来場者数】2,601人

● 文化芸術活動への参加促進

■ アーティスト人材データベースの充実・活用促進 センター事業

- ・データベース登録件数 114件(R8.2末現在)(R6年度末から20件増)
- ・登録アーティストの活用の流れをまとめた動画を制作し、HPで公開
- ・登録アーティスト活用促進のための奨励金制度を創設 【活用件数】12件

■ アートコミュニケーターの活動促進

- ・アートコミュニケータ講座を開催(1日目:講演、2日目:ワークショップ) 【参加者数】のべ35名



「ふくい文化創造センター」スタッフ



アートプロジェクト(おくえつ民話の創作)



ハーモニー文化フェス(ワークショップ)

R8年度の 主な取組み (案)

- ・アートプロジェクトの担い手・支え手を確保するための仕組みを構築
- ・アートを介してコミュニケーションを生み出すアートコミュニケータの活動を促進するため、講座内容を充実

② 県民すべての表現・参加機会の拡大

● 多様な担い手による創造的な活動の促進

■ 多様な鑑賞機会の拡充 センター事業

- ⑨ インクルーシブアーツ研究の第一人者である新井鷗子氏(東京藝術大学客員教授)監修によるインクルーシブプログラムの担い手育成研修を実施(全7回シリーズ)【受講者数】25名
- ⑨ 高齢者福祉施設、障がい者福祉施設等にアーティストを派遣し、音楽や絵画、演劇等のパフォーマンスを披露【派遣回数】11回【来場者数】609名

■ 多様な担い手の作品を一堂に展示する展覧会の開催

- ・「まるまるつながるアートてんまる」を開催
本展: R8.1.24~2.3 県立美術館【来場者数】2,063人
選抜展: R8.3.6~3.15 県立若狭図書学習センター(小浜市)

■ 障がい者アートを活用した商品開発の支援

- ・障がい者アートを活用した商品プランコンテストを開催【支援件数】5件

■ 文化芸術を活用した高齢者の生きがいづくりや介護予防・健康づくりへの支援

- ・地域文化活動や多世代間交流活動等を行う高齢者の団体を支援(助成)【採択件数】89件
- ⑨ 発表の場として「シニア応援文化祭」を初開催
R7.9.23 みくに未来ホール【活動発表団体】6団体

● 誰もが文化芸術に親しめる環境の整備

■ 県立文化施設において収蔵資料等のデジタルアーカイブ化を推進

- ・県立文化施設4館で約880点の館蔵資料をデータ化(R8.1末現在)

■ 地域の貴重な資料の散逸を防ぐための共同調査・研究

- ・県立文化施設の学芸員や外部専門家らが連携し、永平寺所蔵資料の調査を実施



インクルーシブ研修プログラム(アテンド研修)



福祉施設へのアーティスト派遣



シニア応援文化祭

R8年度の 主な取組み (案)

- ・「だれでもピアノ®」(自動伴奏追従機能付きピアノ)によるシニア向けのピアノレッスンカフェを新たに開催

③ 文化芸術を振興する次世代の育成

● 次世代の育成

■ 子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出

- ・未就学児～小学校低学年を対象にしたコンサートを市町と連携して開催
6回開催【参加者数】計 2,199名
- ・小学校の校外学習に活用できる音楽鑑賞会を音楽堂で開催
3回開催【参加者数】計 625名
- ・中学校・特別支援学校にプロの演奏家を派遣してミニコンサートを開催
14校で開催【参加者数】計 1,695名
- ・中学校・高校の文化部活動にプロのアーティストを派遣
33校56回実施【参加者数】計 1,072名
- ・小学校、特別支援学校を訪問してドラムサークル体験会を開催
16校で実施【参加者数】計 939名
- ・県立文化施設の学芸員による出前講座を開催
21校で実施【参加者数】820名(R8.2末時点)

センター事業

センター事業

センター事業

■ 文化芸術系の進路を希望する子どもたちを応援

センター事業

- ・アート系の職業について知り、体験する中高生向けのキャリア教育プログラムを実施
4回シリーズ講座(美術家、カメラマン、デザイナー等)【受講者数】33名

■ 部活動地域展開への支援

- ・実証事業参加市町への支援 9市町

● 若手アーティストの育成

■ 県内アーティストの活躍の場の拡大

- ・県のアンテナショップ「ふくい南青山291」(南青山)、「ふくい食の國291」(銀座)に
県内で活動する若手作家の作品を展示



ドラムサークル体験会



アートキャリア講座



南青山291での県内作家作品展示

R8年度の 主な取組み (案)

- ・音楽堂の音響や設備などのスケールメリットを活かし、オーケストラ公演等の際に子ども向けにリハーサルを公開
- ・文化団体や若手アーティストなどがお互いの活動についてPRし、情報交換を行う新たな交流の場を創出

4 地域文化の振興

● 有形無形の文化財や文化的・歴史的景観の保存・継承

■ 地域の文化財(国・県指定)の計画的な保存・活用を支援

- ・文化財の管理者を対象に、文化財の修理等に関する経費を支援 40件
- ・無形民俗文化財の保存会を対象に、継承や後継者育成、映像作成等の経費を支援 12件
- ・文化財のパンフレット作成や多言語化等の取組みを支援 6件

■ 地域の文化の価値や魅力を国内外へ発信

- ・専門業者とともに、地域の伝統芸能等の保存団体による観光活用等の取組みを伴走支援 2件
- ・地域の特徴を活かした景観づくりに取り組む市町を支援 8市町
- ・伝統的民家群保存活用推進地区内での景観づくりを支援 4件、2団体
- ・方言動画コンテストの開催【応募件数】36件



方言動画コンテスト授賞式

● 地域の文化を支える人材の確保

■ 伝統の技術・技能を継承する人材を育成

- ・文化財修理技術者育成のための研修会を開催
5回開催【参加者数】のべ113名
- ・伝統工芸に携わりたい若者等を対象とした「伝統工芸職人塾」を実施
【参加者数】長期塾生13名、短期塾生9名(R8.1未現在)
- ・若手職人のモチベーション向上を図るセミナーやコンペ形式の公募展等を開催
越前ものづくりの里クラフトコンテスト【応募件数】9件
若手交流会(1回)【参加者数】27名

⑧ 飲食店で使用する伝統工芸品の購入支援【支援件数】19件(R8.2未現在)

■ 地域の文化振興を支えるボランティア活動の活性化

⑧ 県社協が実施する「ボランティア体験」の対象を新たに福祉分野以外にも拡大し、ボランティア参加者に「ふくいはぴコイン」を付与



文化財技術者向け見学会・研修会

R8年度の
主な取組み
(案)

- ・市町が主体となって実施する文化の担い手育成の取組みを支援する補助金制度を新設
- ・「伝統工芸職人塾」において、新たに越前焼窯元での実務研修を実施

⑤ 文化芸術を活用した地域社会の再生と創造

● アートを活かしたまちなかの活性化

■ まちなかステージの設置支援

センター事業

- ・誰もが自由に文化芸術活動の発表ができるステージの設置を支援
新たに2市町(高浜町、美浜町)にステージを設置(累計10市町に設置済)
【ステージ出演者数】のべ2,471人(R7.12末現在)

■ 若者文化を活用した地域活性化の取組み支援

- ・サブカルを活用して街なかの新たな賑わい創出を目指す団体を支援
R7.8 「FUKUIサブカルフェス」2025開催(会場:敦賀市きらめきみなと館)
【来場者数】約2,000人

■ 芸術系の県外学生と県内学生の交流推進

- ・武蔵野美術大学との連携により、県内外の学生が交流しながらアートワークショップを企画し、
「熊川宿若狭芸術祭」会場で実施(3日間)
【来場者数】約250人

● 文化施設の機能充実

■ 県立文化施設の機能強化と利用促進

- ・県立美術館の機能強化に関する基本計画策定委員会を開催し(3回)、基本計画骨子(案)を策定
- ⑨ 県立歴史博物館および幾久公園の基本的方向性検討委員会を開催し(4回)、
機能強化に向けた基本的方向性をとりまとめ(予定)



まちなかステージ(おおい町)



県内外の学生交流事業(WAKASAアートキャンプ)



県立美術館の機能強化に関する基本計画におけるイメージ図

R8年度の 主な取組み (案)

- ・県立美術館について、基本計画に基づく基本設計を実施(予定)
- ・県立歴史博物館および幾久公園について、基本的方向性を踏まえた基本計画策定に向けた検討を実施(予定)

6 文化芸術に交流機会の拡大

● 地域プロジェクト型アート活動への支援

■ アートプロジェクト実践者に対する伴走支援の充実

センター事業

※目指す姿1①「『ふくい文化創造センター』開設」「県民の自律的・継続的な文化芸術活動への支援」に記載

■ 県内におけるAIR拠点の形成

センター事業

・国内外のアーティストが参画する「熊川宿若狭芸術祭2025」を開催

R7.8.21～10.6 臨場展(公開制作と成果発表展)【来場者数】4,323人

R7.9.21 おむすびコンサート(音楽キャラバン隊による演奏会とアウトリーチ)【来場者数】計351人

R7.10.11～11.16 東極の磁場 in WAKASA2025【来場者数】2,142人

● 文化芸術を最大限活用した文化観光の推進

■ 新幹線開業効果の最大化に向けた県立文化施設の誘客強化

・「日本最大の戦国フィールドミュージアム」としての一乗谷朝倉氏遺の魅力向上

デザイナーの視点を取り入れて遺跡内の案内サインのデザインを統一

ファミリー層を対象とした「一乗谷文化祭」開催【来場者数】約3,900人

■ ユネスコ無形文化遺産登録を契機にした魅力発信

⑤ R6年12月に日本の「伝統的酒造り」が登録されたことから、歴史的な酒蔵を保存・活用し、観光地づくり

を推進するため、福井県建築士会、福井県酒蔵酒造組合と連携協定を締結

酒蔵の外装・内装等の改修モデルを検討

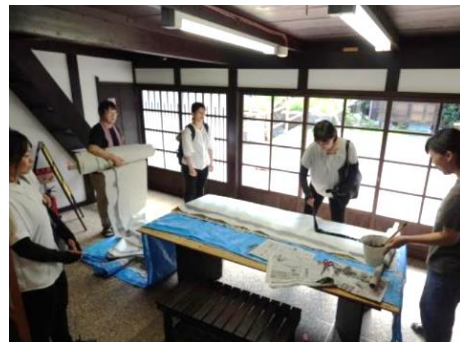
⑥ R7年12月に「越前鳥の子紙」が登録されたことから、越前市と連携し、魅力発信イベント等を開催

(県アンテナショップや県内商業施設でのPRイベント開催、PR動画の発信 など)

● 国際的な文化交流の充実

■ 海外との文化交流・相互理解の促進

・本県在住の外国人に「Fukuiレポーターズ」が県内イベントに参加し、国内外に福井の魅力を発信(4回)



熊川宿若狭芸術祭(臨場展・公開制作)



Fukuiレポーターズのイベント参加の様子(金津祭り)

R8年度の
主な取組み
(案)

・「熊川宿若狭芸術祭」について、より地域の特性を活かし、住民と連携した取組みとしていくため、コーディネーターの設置やボランティア組織の立上げ等を行う
・一乗谷朝倉氏遺跡博物館への来訪を促進するため、地域おこし協力隊を活用して県内外からの誘客推進の戦略を強化

7 文化芸術によるクリエイティブな経済の活性化

● 文化芸術活動を応援する企業の拡大

■ 企業の文化活動促進に向けたネットワークづくり

センター事業

- ・経済界との連携により、県内企業6社と福井商工会議所、(公財)福井県文化振興事業団、県で構成する「企業の文化活動促進研究会」を設置し、勉強会を開催(8回)
- ・R7.9 企業の文化活動を活性化するための検討の方向性をまとめた中間報告書を公表
- ・県内企業を対象としたアンケートを実施(R8.3.13×)【対象】約5,600社

■ 企業向け文化芸術セミナーの開催

センター事業

- ・企業が文化芸術活動に関わる意義や効果について理解を深めてもらうためビジネスパーソン向けのセミナーを開催(4回)【参加者数】のべ 204名

■ 福井商工会議所の議員懇談会で経営者に向けた講演会を開催(1回)【参加者数】80名

● 文化芸術と地域経済の有機的な連携創出

■ デザイナー、アーティストと企業等とのビジネスマッチング促進

- ・デザイン導入の少ない企業に対し、デザインセンターが仲介役となってデザイナーを派遣30回実施(5社)、グループカウンセリング 6回実施(3グループ) (R8.1末時点)
- ・デザインの活用について、企業経営者層の理解促進を図る講座を開催
実践講座:全13回開催【受講者数】20名
デザインレクチャー:全11回開催【参加者数】計70名

■ クリエイターの交流拠点の運営

- ・福井駅前のクリエイターが気軽に集まり交流できる拠点・ふくいクリエイティブホーム「Cream」を運営【利用件数】968件 (R8.1月末現在)
- ・クリエイターバンクの構築【登録者数】111名 (R8.1末現在)
- ・スクーリングの開催(10回)【参加者数】のべ 263名 (R7.12末現在)

■ 産業観光ビジネス支援

- ・体験メニュー開発に取り組む企業への支援【支援実績】5件



企業の文化活動促進研究会



ビジネスパーソンのための文化芸術セミナー



クリエイター交流会

R8年度の
主な取組み
(案)

・「企業の文化活動促進研究会」において、具体的な施策案等を最終報告書としてとりまとめるとともに、R9年度予算への反映を検討

プラン推進に向けた課題と解決に向けた協働

	課 題	解決に向けた協働
1	「ふくい文化創造センター」の周知と活用促進をさらに図っていく必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・市町や各市町の文化協会等と連携を図りながら、広く地域の団体等に周知を図る
2	アートプロジェクト実践団体は増加しているが、資金面や人材面で課題を抱えている団体が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・「アートプロジェクト評価委員」が経済界、金融、メディア等の専門的な視点からアートプロジェクトの評価・助言を行う
		<ul style="list-style-type: none"> ・アートプロジェクト実践団体とアーティストや各種文化団体の交流の場を創出し、多様な人材とのネットワークを拡大する
3	子ども達が文化芸術に触れる機会を確保していく必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への専門家派遣や文化団体等による体験機会の確保など、文化芸術活動の実践者と子ども達の接点を増やしていく
4	美術館・博物館の機能強化を進めるとともに、施設のファンづくりを進める必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い分野の有識者、団体等との意見交換を行い、施策に反映する
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設における県内団体との連携企画実施に向けた協議を進める
5	企業の文化活動促進に向けて、活動の意義を共有し、活動を広げるための仕組みを構築する必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・「企業の文化活動促進研究会」において引き続き議論を進めるとともに、県内企業へのインタビュー等を行い、実効性のある仕組みを構築していく